

## 第19回市民フォーラム報告書

# 対話で拓く 子どもにやさしいまちづくり



第19回市民フォーラムのテーマは、「子どもとおとなの対話」。

これまでのフォーラムは、「子どもの参加」を目指してきましたが、今回のフォーラムで目指したのは「子どもの参画」。登壇者である中学生の山下さんと高校生の中井さんに、フォーラムの企画段階から関わってもらい全体のプログラム構成も共に考えた、初めてのフォーラムとなりました。

前半は、子どもが自己表現できる場「こどもばんぱく」を自らつくり、次の担い手にバトンを渡したいと考えている中井さん、寄り道できる子どもの居場所を通学路につくりたいと考えている山下さんと参加者(おとな&子ども)との対話。子どもには力があること、子どもは、「子どもの権利を具現化する子どもにやさしいまち」の創り手でもあることに気づかせてもらいました。

後半は、テーマ毎に参加者(おとな&子ども)同士が対話を楽しみました。

今回のフォーラムで見えてきたのは「子どもにやさしいまちづくり」は「子どもと共に」ということです。SDGsを定めた文書『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ』の「宣言」で、子どもは、守られるべき“脆弱な人々”に含まれるだけでなく、“重要な変化の担い手”と位置づけられています。(ユニセフHP 子どもにとってのSDGs参照)

まずは子どもの意見や考えを聴くこと、子どもに学ぶことから始めたいですね。

佐伯 美保



### 目次

- ◆子どもと大人の対話「きかせてきみのキモチ」
- ◆市民フォーラムに参加して
- ◆交流会 A100万円を人のために使うなら？  
B循環型社会ってどんなの？  
C子どもにやさしいまちづくりって？  
D フリーテーマ
- ◆子どもたちの感想
- ◆子どもにやさしいまちの定義と9つの構成要素  
SDGsとの関連
- ◆子どもにやさしいまちづくりネットワーク

2020年12月5日 10:00～15:30

福岡市早良市民センター第1会議室 他

参加者数：75名（おとな：65名、子ども：10名）

特定非営利活動法人子どもNPOセンター福岡



## 子どもとおとなの対話「きかせて あなたのキモチ」を振り返って・・・

特定非営利活動法人 箱崎自由学舎えすぺらんさ 上村 一隆



第19回市民フォーラムのメインテーマは文字通り「対話」であった。私たち大人が子どもたちの声をちゃんと聴けているのか？子ども自身が何を望んでいるのか？改めて顧みる場として、そして子どもたちの言葉から大人が学ぶ場として、実際に子どもたちの声を聞いてみようというところから、本企画の開催に至った。このページでは、登壇頂いたお二人との「対話」や「言葉」を振り返りながら、私自身が感じたことを書かせていただきたいと思います。

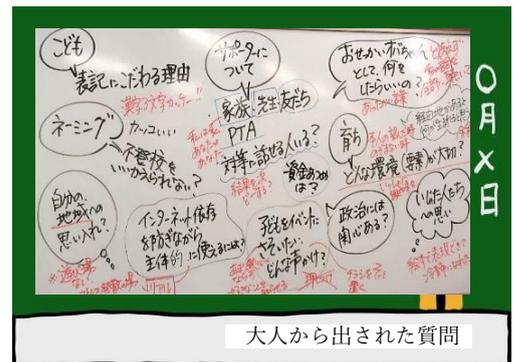
登壇者の中井けんとさんは、現在高校生。小学生の頃に企画した「子どもばんぱく」の取り組みや今後やってみたいこととして教育に携わっている人たちと話す機会をつくっていききたいとの考えを語って頂いた。ここには、子ども VS 大人といった対立構図ではなく、生徒と先生、民間と行政などの肩書や立場を越えて「人と人、個人個人として」対話する場が必要だとの思いが込められていた。そこから生まれる信頼感、子ども自身が自分事として教育を捉える発想、一方的な押し付けではなく、人として共に、との考えは、本フォーラムが目指すところを具体的かつ端的に表現していただいた部分だと感じた。

もう一人の登壇者、山下こはるさんは現在中学3年生。学校に居場所を感じられない子どもたちの居場所「よりみち処いろは」の活動を通しての思いを語っていただいた。山下さんのお話を通して感じたのは、線引きのない社会・地域の必要性だったように思う。「学校に行ってる行っていないに関わらず」「子ども、大人に関わらずさまざまな世代が集まれる場」

「人生や生活の経由地、文字通りのよりみち処」そうした言葉は、何にでも線を引きたがる社会への息苦しさに対するアンチテーゼとして、スツと心に入ってきたという参加者も多かったのではないかと思います。

続いて、会場からの質問に対してお二人に回答いただく時間を設けたが、大人が当たり前感じていた価値観を大いに揺さぶる機会になったように思う。「不登校って文字はカッコいい」「これからの時代、大人がしっかりとインターネット活用法を学んで欲しい」「まずは全部聞いて欲しい」そうした言葉は、お二人の実体験の中で育まれてきた率直な想いだと感じた。参加者の層はそれぞれあっただろうが、感想の多くに、「刺激を受けた」「目からうろこ」「衝撃だった」そうしたご意見があったことは、この機が大きなきっかけとなる可能性になったとの印象を強く抱いた。

最後となるが、私自身がこの時間をお二人と共にし、またご参加の皆さまと共有したその場は一言で言えば「楽しかった」という至極安直な表現に尽きる。純粋にそう感じたのが終わった瞬間の思いではあった。しかし改めて振り返り、感想の言葉をいただく中で考えるのは、何も大人に対して言葉を持っているのは、こうした場で発言したお二人だけではないという部分である。確かにお二人の思いや考えによって成り立ったところは大きい。とは言え、言葉にしたいけれども言葉にできない思いを抱えている子、「どうせ大人に言ったって・・・」と大人への不信を抱えている子、日々忙しそうにしている大人に気を遣って見えない我慢を強いられている子、さまざまな子たちがいる中、私たち大人は耳を傾け「対話」をしていかなければいけないと改めて感じさせていただく機会になった。



## 市民フォーラムに参加して 直接の対話&出会いにワクワク!!



### ● 中井 けんとう さん



市民フォーラムに参加させていただきありがとうございました。ご参加頂いた皆様、ありがとうございました。ご参加くださった方と、直接対話出来たり、意見交換できる場を作ってくださった子ども NPO センター福岡の方達に、本当に感謝しかありません。色々な職業、年齢の方と意見の交換ができ僕自身も視野が広がったと思います。

山下こはるさんや上村さんともお話ができ凄く嬉しかったです。また運営の方も僕の意見をイベントの中に組み込もうとしてくださったり本当の意味での子どもとおとなの対話の実現できたイベントになったのではないかなと思いました。こういった大人と子どもの対話の場所が増えていけば社会がもっとよりよくなっていくのではないかと思います。

### ● 山下 こはる さん



市民フォーラムのお誘いありがとうございました！お誘い頂いた時は「また色々な人のお話が聞ける!？」とウキウキし、内容等の会議を重ねるうちに「そうだった…私結構おしゃべりする時間貰ってたわ…」と焦り、どんな話をしようとかどんなスライドにしようとか考えながらワクワクし、当日の電車内では乗り換えと IC カードの残高で焦り、何だかんだあるうちに時間になって、そこからはもう気持ちのむくままに話したり聞いたりしてたな～と思います。

ああいう場は慣れていなかったのもあって、とっっても目まぐるしい一日でした。活動っぽいことを始めて、視野とか移動範囲とかが広がって、色々な人に会って、あれしたいこれしたいが増えてとってもワクワクしてます。これからこのワクワクを形にしたり、一緒にワクワクしてくれる人を探していく予定なので、よかったら応援してください(\*´ω`\*)♪ 皆様と色々な場所でまたお会いできるのを楽しみに、これからも頑張ります！

### <参加者の声>



●子どもの「Want」に耳を傾ける…。今日一番印象に残った言葉です。 60代

●山下さんと同じ思いで仲間と活動しています。お話を聞いて「地域にとまり木」を広げていけるよう、これからもがんばって行こうと思いました。40代

●プレゼンされた二人について、「本当に中学生？高校生？」と正直驚きました。自分が同じ年代の頃は、そこまでの行動力や、考え方は多分なかったと思います。お二人のされている“人と人をつなぐ”ことをお伺いして、私自身の仕事に対して振り返ることができました。参加して本当に良かったです。30代

●お二人の発想と行動力に自分もがんばらなくてはと思いました。「不登校に、字3文字がかっこいい、聞いた人のイメージの問題」とおっしゃっていたのが衝撃。嫌だと思うのは考え次第で、色々な人の考えを聞き、様々な考え方を発見することが大事だと感じた。学ばせていただくことが山ほどあった。20代

●子どもが講演する姿、発信する内容、生の声を聞くことが出来て、改めて、子どもが大人に秘めた思いや能力を沢山持っていることに気づかされました。大人は少し黙って、まずは、子どもの話を聞くことを重点に意識したいと改めて実感しました。30代

## 交流会

これまでの市民フォーラムでは分科会を開催していましたが、今回は子どもと大人の対話を大事にしたいということで『交流会』という形で企画しました。

### A【100万円を人のために使うならどうする?!】（報告：木戸 勝也）

『100万円を人のために使うならどうする?!』というテーマは、子どもに企画してもらいフォーラムを作っという趣旨のもと、子どもから出てきたテーマの一つでした。大人としては「100万円では大したことができないのでは?」と考えがちですが、子どもから『大きな額は想像するのが難しい、人のためにできることを100万円くらいの枠で考えるのが面白いのではないか』と意見を頂き、子ども目線からの素敵な意見として採用しました。交流会が始



まると、スタート時点では少し緊張していた子ども

が、周りの大人のフォローもあり少しずつ口を開いてくれる様子が見られました。あるグループで出て来た子どもの意見として『山を買う』というものがありました、この意見が出て来たときはこちらもびっくりしました。その後、大人から実際に山の地価がさほど高くないため現実的に可能ではないかと言った意見も出てきました、そしてグループ内でいかにして買った山の土地を活用するかが熱く議論され、まさに

子どもと大人の対話の成果が見られる場面がいくつもありました。初めての試みでしたが、対話を通じて子どもと大人が相互理解を深めることができたと思っており、来年度にも繋げていこうと思います。

<感想>・自分に共通する考えに勇気をもらい、また、全く違う視点に気づきがありました。100万円がなくても、できることをやろう!と思いました。

・はじめの意見交換からどんどんイメージが膨らみ、そこから話がスライドしてまとまっていく過程がとても楽しかった。「否定しない」場が素敵です。

### B【環型社会ってどんなの?!】（報告：武本 久美子）

このテーマで子どもと大人が、またいろんな背景をもった人がどうやって対話できるか、それが今回の挑戦でした。「循環」という言葉の捉え方は人によって違うでしょう。大人と子どもの間でも、その人の生活経験によっても。今回は「違いを楽しんでみましょう」と呼びかけました。まず循環のイメージをA4の紙に絵で書いてもらいました。ある方は一つ〇を書きました。なるほど・・・ある方は雨と川と海と・・・



そうか水は循環している!そしてある方は人をたくさん書いていました。ある人が人に親切にするとその人がまた次の人へ親切を送る・・・恩送りの循環をイメージしていました。その他、命の循環、役を担う人の循環、物質の循環・・・それぞれからイメージを出してもらったおかげで、「循環」の持つ意味が豊かに広がっていきました。また表現方法も幾何学模様で表すこともできるし、具体的な絵で書くこともできるし記号で示すなどいろいろあることに気づかされました。ワークショップでは、次に身の回りで循環しているもの



を見つけようと問いかけてみましたが、最初のきっかけで触発されてどんどん会話が盛り上がっているようでした。違いを楽しもうとするとき、知識量や経験量の差は気にならなくなるのではないのでしょうか。それぞれの経験と個性から学びあえる、対話による生きた学びとなるのではないのでしょうか。子どもと大人の対話では違いを楽しむ気持ちがあると豊かな対話となるのではないのでしょうか。

<感想>・それぞれが思う「環型社会」が異なり身近なものから大きなものまであり、意識まで考えることもなかったの

で学びになりました。テーマは難しすぎず、話やすかったです。

・循環と言っても言葉だけで具体的なイメージを持っていなかったことに気づいて楽しかった。

## C【子どもにやさしいまちって？】（報告：和田 貴美子）

このグループは「子どもにやさしいまち」を具体的にイメージすることを目指し、話し合う内容を3段階で示して、付箋に書き込みながら、意見交換しました。

まず1グループを4～5人で分け、自分自身の子供時代を振り返ることを自己紹介代わりとして始めました。その後①子どもにやさしいまちのポジティブなイメージを出し合いました。「子どもの居場所や遊び場があること」

「地域のつながりがあること」などの、やさしいまちのイメージが出ました。

②「子どもにやさしくないこと」を出し合いました。「子どもの話を聞かない大人」「理不尽な校則」「禁止ばかりの公園」等の子どもに関わる事と共に「子育て中の親が支えられていない」という意見もありました。



③どうすればいいか、何があればいいかを考えました。「校区にひとつプレイパークを」「子どものための子ども館建設」「お金の心配なく学びたい子どもが学べる制度」などの具体的な意見と並び「大人の余裕が必要」「子育て中の親を見守る地域」など大人の問題への言及も見られました。最後にグループごとに特に出ていた意見や、気づいたことを発表しました。参加者からは、色々な立場の方とじっくりと話せて、楽しかったという意見が出ていました。



<感想>・途中で移動することなくグループでテーマについて楽しく、しっかり話せました。大人が余裕を持つことが、子どもの声を聴くことにつながる。校区に一つ、せめて区に一つプレーパークや子ども館を！  
・子どもが失敗を恐れてしまったり、評価を気にしてしまったり、意見を言えないことは、大人が考えを改めなければと思った。大人が幸せに生きることが、子どもの幸せにつながるのだと思う。

## D【フリーテーマ】（報告：重永 侑紀）

この会場はテーマから作り出すセッションでした。おもむろに「ここ？」「ここいいの？」となんとなく参加者がはにかみながら席に着くと、「どうする？」「何から話し出す？」というところから始まりました。「もしすごいパワーを身につけられるとしたら、どんな力がいいか」から始まりました。おとなだけのグループは話し込んでいましたし、年齢の小さい人が一緒にいるグループは机に広げられた模造紙に爆発的絵画で表現されていました。何回か人が回転して、段々と一ヶ所に集まり始めました。他にも机はあるのに1つの机の周りに大きな輪ができていて老若男女が「学校の治外法権のような校則」に話題が集結してきました。



歴史的な話から、現役学生からは「それほど嫌ではない」「結局のところ社会に出ればあれこれ拘束されることはあるのだから」という意見も出ました。おとなたちが「校則はおかしい」と声を上げる中、言いにくかったかもしれないけど正直な感覚を教えてくれたことにも意味があったかなと思います。また、おとなたちがこんなに熱く子どもたちのことを考えてくれていることにいい意味で驚いたという意見も出ていました。

<感想>・「子ども」の概念の話、学校の校則や、制服の話、親世代も周囲に合わせるものが当たり前として教育されて育っていること、その文化を、子の世代に押し付けるといった経過があることなど、大人と子どもと一緒に話せて盛り上がりました。

## 古賀子ども劇場から参加した子どもたちが、感想を送ってくれました



●午前中はゲストのお二人の話を伺いました。中井さんの「こどもばんぱく」の運営方針のお話では、子どもは理想を語って良いのだ、子どものワガママから社会の課題を見付け、現実を改善していくのは大人の役割なのだと思い、山下さんの「経由地」のお話では皆に用意される居場所について、そう考えれば学校も、行政の用意した居場所の一つなのだと考えました。「不登校」という言葉について、自分も単語から色々良からぬ事を連想していたと目からウロコを零しました。聞く事が出来て本当に良かったです。

午後からはフリートークのコーナーで、学校の問題を中心に色々話しました。変なことが沢山あるので、変えていかなければと思いました。自分の話も真剣にきいてくれて嬉しかったです。自分にはわからない事を多く見聞きし、とても勉強になりました。人間と人間の関係は難しいけれど、面白いと思いました。(中2)

●フォーラムでは、いろいろな人と話をしたり、聞いたりして自分の考えを深めることができた。テーマが「子どもにやさしいまちづくり」だったが、ほかにも校則など、いろいろなことを話せて改めて考えることができたのでよかった。(中2)

●午前のお話では、自分の近い年齢の人の話も聞くことが出来たし、共感するところがちょこちょこあった。午後「100万円を人のために使うならどうする？」で、同じグループの人と話合せて、気軽に会話でき、色々な人の意見も聞けてよかった。

●大人に混じってテーマ別交流会に「参加した中学生に、カッコイイと言環境づくりたいです。(60代)

●「自分の意見を言えた」というのが、普段は「言えてない」「聞いてもらえない」環境が多いのかなあ、と思い、りに励もうと後押しされました。(大人)

### すべての子どもを視野にいれて

大人たちは感嘆のため息と、惜しみない拍手を二人に送った。その一方で貧乏振りをしながら悶々としていた17歳がいた。

彼は社会的養護のもと暮らしている子どもだ。好むと好まざるとに関わらず自立させられる身だ。不登校の選択肢はあっても選ぶことはできない。ブラック校則だと思ったとしても無事に卒業しなければ退学後、生きていくことはできない。つまり異論を唱える選択肢もない。もやもやとしながら、場の雰囲気壊したいわけではないし、二人の努力も理解できる。ただ、自分のことを否定されているような気持ちに苛まれていた。

あえて、この報告書に彼のような子どもがいたことや、読者の皆さんに絶えず「子ども」にはさまざまな状況下の子どもがいることを考えていただきたく記すことにした。子どもの姿を美談にすることなく、子どもと共に「あらゆる子どもにやさしいまちづくり」を目指してもらえることを願う。(重永侑紀 筆)

今日のフォーラムで心に留めておきたいなあ~と思った言葉をポストイットに書いて、大きな樹に貼りました。



子どもにやさしいまちの定義と9つの構成要素、SDGsとの関連

子どもにやさしいまちづくり→子どもの権利条約を市町村レベルで具現化する

<子どもにやさしいまちの定義>

子どもの権利を満たすために積極的に取り組むまち（ユニセフHPより）

 子どもが

- ・  まちの決定に影響を与えることができる 
- ・  子どもたちが望む”まち”の在り方に関して意見を言うことができる  
- ・  家族に、コミュニティ、社会生活に関わる  
- ・  教育や保健などの基礎的サービスの供与に預かる  
- ・  安全な水や衛生施設を使うことができる 
- ・  搾取、暴力、虐待から守られる 
- ・  まちを安全に歩くことができる 
- ・  友達と会い、遊ぶことができる  
- ・  植物や動物のための緑地がある  
- ・  汚染されていない環境で暮らす  
- ・  文化的、社会的行事に参加する  
- ・  種族的出身、宗教的理由、あるいは収入の多い少ない、性別、そして障害のあるなしに関わらずその町の平等な一員として如何なるサービスも受けることができる  

<子どもにやさしいまちの9つの構成要素>

- 1.子どもの参画
- 2.子どもにやさしい法的枠組み（条例等）
- 3.都市全体に子どもの権利を保障する施策（条例に基づく計画と実施）
- 4.子どもの権利部門または調整機構
- 5.子どもへの影響評価
- 6.子どもに関する予算
- 7.子どもの報告書の定期的発行
- 8.子どもの権利の広報
- 9.子どものための独自の活動（子どもオンブズマン等への支援）

「子どもの権利が尊重される社会の実現」へのムーブメントを起こしていきたい。

# 子どもにやさしいまちづくりネットワーク

子どもNPOセンター福岡  
参加者募集

### 登録は無料

参加申込書にご記入の上、メールまたはFAXでお手続きください。WEBフォームもご利用頂けます。

### 学べる

テーマ別ひろばに参加希望の方は入会(準会員)が必要です。

子どもの課題に関する最新の話題やイベントなど、様々な情報をメールでお届けします。

### だれでも

現在、29団体・171名が参加しています！  
(2020年3月現在)

「子どもにやさしいまち」の考え方にご賛同いただける方はどなたでも参加できます。

第19回市民フォーラム  
対話で拓く子どもにやさしいまちづくり  
報告書  
2021年3月発行

<発行>

特定非営利活動法人 NPO Center for children Fukuoka  
**子どもNPOセンター福岡**

〒810-0023 福岡県福岡市中央区警固1-15-34 警固セントラルビル401号  
TEL:092-716-5095 FAX:092-753-6360 E-mail:info@npoccf.jp